

伝説と歴史の舞台を歩く

お満灯籠

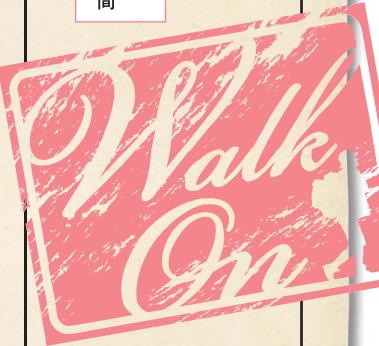
守山市
DATA

●歩行距離 約6km
●歩行時間 約2時間



琵琶湖大橋東詰の料金所付近にあるお満灯籠。湖岸の公園整備により昭和60年に移設された。

娘の一途な恋の悲劇を物語る比良八荒



毎年3月下旬、強風で琵

琶湖が荒れる自然現象を

「比良八荒(講)荒れじまい」

と呼ぶ。これは天台宗の法要

「比良八講」の時期と重なる

ためだが、これには悲しい民

話が伝わっている。

民話には諸説あるが、そ

の一つの話として、その昔、湖

東の鏡村で相撲興行があり、

村娘のお満は比良村から來

た八荒という美男の力士に

一目ぼれをする。村へ帰ろう

とする八荒に、お満は恋心を

打ち明けるが、男は「100

日通いとおしたら嫁にしても

いい」と言う。この言葉を信

じ、お満はたらい舟で対岸の

白鬚明神の灯明を頼りに毎

夜通いつめるが、娘の一途さ

が恐ろしくなった男は、99日

目の夜、白鬚明神の灯明を消

してしまう。お満は方向を見失い、不運にも強風による大

波によってたらい舟ごと湖に沈んだ。その後、娘の乗ったた

らいは蛇体となつて今浜の岸

に漂着。村人がこれらを拾い

集めて硫黄を作ったことか

ら、毎年、旧暦2月24日には

今浜町の樹下神社で硫黄夜

祭が行われている。

琵琶湖大橋の東詰には、お

満を偲んで建てられた灯籠

が佇んでいる。今回はお満ゆ

かりの樹下神社からお満灯

籠を目指して歩いてみた。廢

川となった旧野洲川のびわこ

地域市民の森湖岸の美崎公

園、なぎさ公園など、春には

花や緑とふれあえる快適な

ルートである。

湖国に春の訪れを告げる「比良八講」は、例年3月26日に比良山麓と琵琶湖の湖上で営まれる。打見山で取水した法水を湖面に注ぎ、水難者の供養、琵琶湖の浄水など環境保全を祈願する。この行事は、天台宗の法華八講という大切な法要で、昭和30年に復活した。



なぎさ公園から望む比良山
(写真提供／ひわこビジタースピーカー)



“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。